

続いて恒例の懇親会では牛島前会長の自慢のナツメロ？や葭原さんの見事なフルート演奏などがあり、楽しい時間が過ごせました。
さらに二次会では各自持ち寄りのおいしいお酒を堪能しつつ、よもやま話に花が咲き、時間の経つのも忘れて遅くまで楽しく語り合い、今年度もまた登録会活動に力を入れようと誓い合いました。（牛島英二）

「平成21年度を振り返って」

2月24日のセイミヤモール麻生店登録会をもちまして平成21年度の全25回の登録会が無事終了しました。

データ的には登録者総計422名と多くの方々にご登録いただくことができました。

これも偏に県業務課をはじめ、各保健所ご担当者の皆様、血液センターの皆様のご指導・ご協力の賜物であり、心から御礼申し上げますと共に、会員各位の多大なるご尽力にも感謝いたします。今年度から各保健所年間1回以上の開催という計画でスタートしましたが、結果として平均2回以上の登録会を開催することができました。

皆様、ご承知の通り、骨髄バンク事業は、国が掲げたドナー登録目標数30万人を既に達成しているものの、今もなお、多くの患者さんが骨髄バンクに登録され、骨髄移植を待ち望みながらも、依然、移植を受けられない患者さんがまだまだおられるのが現状です。

これからも一人でも多くの県民の皆様にご登録をして頂けるよう努力して参る所存ですので、県ならびに血液センターにおかれましては、今後ともよろしくご指導・ご協力いただけますようお願い申し上げます。

今年度も年度計画では18回の登録会が計画されており、これらを実施していくためには会員の皆様のご協力が不可欠です。

「一人でも多く、一刻も早く患者さんの救命に寄与する」を胸に刻み「気負わず・あせらず・できることから。楽しく」で一人ずつ活動してまいりましょう（前会長 牛島英二）

「骨髄バンクを支援するいばらきの会」

設立10周年記念誌発刊のご案内

いばらきの会は昨年、設立10周年を迎えました。

今般、設立10周年を記念し「10年のあゆみ」と題し10周年記念誌を発刊いたしました。

あらためて、この10年間の記録を見ながら編集を進めるにあたりこれまでの数々の思い出、出来事をどこまで書き綴ることができるかと不安ではありましたが、紙面の許す限り事は綴れたのでなかろうかと自負しております。

発刊にあたっては、各方面からのお祝辞等頂きましたこと、また会員各位からのメッセージや思い出の原稿を数多くいただきました事あらためて感謝申し上げます。

一部の会員の方には既に記念誌をお渡ししておりますが、お渡しできていない皆様には今回の会報と共に送らせていただく事になっております。

皆様におかれましては是非、記念誌を読んでいただき、これからの活動に活かしていただければと思っております。

ありがとうございました。（編集人 牛島英二、小田倉孝夫）

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

《会長就任のご挨拶》

伊井義人

今年度より、当会の会長を仰せつかりました。

当会は1999年の発足以来、牛島前会長の元、10年の長きにわたり骨髓バンク事業に多大な貢献を
してまいりました。

これもひとえに牛島前会長の強いリーダーシップの元、会員一丸となって努力してきた結果であ
ると思っております。

これまでの牛島前会長のご功績は、数えたらキリがありませんが、その中でも特筆すべきは、や
はり平成14年度から始まった保健所主催による骨髓バンク登録会の仕組みを確立させたことでは
ないでしょうか。

それによって当時伸び悩んでいた県内のバンク登録者数の実情を見事に増加に転じさせるととも
に、年間30回前後の登録会を毎年実施することが可能となりました。

このように、マネジメントにも長けておられる牛島前会長の後任として、今年度から会長職をお
受けしたわけですが、正直、不安と期待でいっぱいです。私は牛島前会長のようなリーダーシッ
プは併せ持っておりませんが、皆さまと共に一人でも多くの骨髓バンク登録者の拡大を願って、
精一杯努力する所存でありますので、今後とも皆さまのご協力とご支援ををお願いいたします。

《会長退任のご挨拶》

牛島英二

当会創立時より会長を務めてきましたが昨年9月に設立10周年を迎え、これを記念して今年4
月に10周年記念誌を発刊することができました。

また、当会設立時の本県ドナー登録者数の県別目標達成率は全国最下位レベルに低迷していまし
たが、県薬務課ならびに県血液センターの多大なるご指導・ご協力と、会員各位のご尽力により
昨年2月に目標数に到達し、全国順位も中位につけるところまでに至りました。

さらには昨年2月に当会のこれまでの活動が認められて、健康づくり推進功労者県知事表彰を受
章することができました。

こうした節目を迎えるにあたり、今般会長職を退き、伊井さんにバトンタッチして新会長をお願
いすることになりました。

新会長の伊井さんは、その優しいお人柄と抜群の行動力で当会の新しい1ページを開いて、当会
をより良い方向へと導いていただけるものと確信しております。

私も副会長として伊井会長をサポートしながら当会の発展に微力ながら寄与していく所存ですの
で、会員の皆様方におかれましては今後とも当会活動への積極的なご支援・ご参加をよろしくお
願いいたします。

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

9月～3月 茨城県内イベント登録会等報告

10月22日 常総市民会館献血併行登録会

ドナー登録者数 27名 (受付 29名)
献血者数 111名 (受付159名)
参加者 常総保健所：萬様
いばらきの会 福間さん、長尾さん、葭原さん、伊井陽子さん
地区普及広報委員 伊井義人

常総市民会館での登録会は、約2年ぶりの開催となりました。水海道ライオンズクラブが主催する献血での併行型登録会です。朝早くからライオンズの面々が会場を準備万端整えており、ロビー奥には新鮮野菜などの直販コーナーを設けるなど、献血の集客に力を入れている様子が伺えました。献血受付開始時間と同時に、問診票記入の席(12席)はあっという間に埋まってしまう、声をかけるヒマもなく献血受付へ回ってしまいました。受付にも一気に流れ込んでしまったため、順番も当初は混乱しており、声をかけるどころではありませんでした。列も徐々に落ち着いた頃からやっと本腰を入れて声かけを行うことができました。バンク登録一番乗りの男性は、なんと、ご自宅で申込書をプリントアウトし、それに記入して受付へおいで下さいました。また、途中にも、チャンスを手に入られて、その申込書に記入して来られた女性もいらっしゃいました。この女性にお話を伺ったところ、財団のホームページにアクセスし、そこから登録会開催のメールサービスを受け、この日の登録会を知ったそうです。バンク登録の意識が高まっていることを実感した登録会でした。昼休み無しの登録会でしたが、結果として27名の方に登録をいただきました。ご協力いただいた水海道ライオンズクラブの皆さんに感謝いたしますとともに、参加された皆さま、本当にお疲れ様でした。余談ですが、ライオンズクラブの方からは、「毎年2回自分たちで献血を主催しているが、バンク登録はたまにしか見ない。毎回来ればいいじゃないか。」という言葉がかけられました。一考の余地はあるかも・・・(伊井義人)

10月24日 神栖市消費生活展会場献血併行登録会

ドナー登録者数 14名 (受付 16名)
献血者数 52名 (受付 73名)
参加者 潮来保健所：安澤様、井坂様
いばらきの会 牛島さん、葭原さん、小田倉さん
地区普及広報委員 伊井義人

3年連続となった今年の神栖市消費生活展は、予想もしない展開で始まりました。消費生活展の開会と同時に、数百人の方々がバンクコーナーの横をドットとだれ込み、一人の方が当日呼び込み用にテーブルに用意していたパンフを手を取った途端、後に続く列の皆さんが当然もらえるものと思いきみ、結果ほぼ全員に、バンクのチラシを配る羽目になってしまいました。用意したチラシ100部はものの数分で無くなり、あとは予備に持っていた各種チラシで対応しました。(実はそれも結果的にすべて捌けてしまいましたが)ある意味、数百人の方々に骨髓バンクのPRが自然にできたともいえますが・・・

そのようなハプニングに加え、なんと献血バスが予定時間に会場入りに間に合わないというハプニングも起きました。それは、会場内に入るところの鍵を持った主催者側の方がどこか外へ行ったまま帰って来ないため、バスの入場ができなくなっていたことが原因です。開始前にいろいろとありましたが、全体的に献血もそう混み合うことなく実施され、ドナー登録の方も結果的に何とか14名の方に登録いただきました。献血者のおおよその年齢としては、ドナー登録要件を欠く方も多く、そういう意味ではまずまずの登録者数ではないか、と思っております。特に16歳～17歳の地元高校生の集団も献血に訪れ、初めての献血に果敢に挑んでいた姿が印象に残っています。もちろん、18歳になったらドナー登録をよろしく、という言葉はちゃんと

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

9月～3月 茨城県内イベント登録会等報告

かけておきました。全体的に思ったことは、既登録者の方が結構いたことに感銘いたしました。また、きっと来年も登録会が実施されることと思いますが、今度は、開会と同時に入場してこられる方々へのチラシ配りにしっかりと対応し、バンクと献血のPRをぬかりなくできる準備を整え、万全を期したいと思いました。

寒い風が吹く中、参加された皆さん、本当にお疲れ様でした。（伊井義人）

10月25日 建設フェスタ献血併行登録会

ドナー登録者数 16名（受付 19名）
献 血 者 数 55名（受付 76名）
参 加 者 ひたちなか保健所：佐藤様、高藤様
いばらきの会 福間さん、長尾さん、伊井陽子さん
地区普及広報委員 伊井義人

毎年場所を変えつつ実施される建設フェスタ登録会は、今年で4年目となりました。

昨年は登録率7割を超えたイベントでもあり、大いに期待できる登録会ではありましたが、前日の天気予報では雨模様とのこと。人出を心配しながら当日朝、目が覚めると雨の予報は曇りに変わっていました。

それでも、会場は強い海風が一日中吹き荒れ、テントが飛ばされないよう主催者からの指示により、途中で風よけの横幕がすべて巻き上げられてしまいました。これではたまらない（強風により書類が飛んでしまう危険性や、登録希望者、説明員、受付への配慮）ので、なんとか半分だけは下ろしていただきましたが、それでも吹き込んでくる海風には、寒さも加わり、本当につらい登録会となりました。このような過酷な状況ではありましたが、午前中は約30名ほどの献血希望者に対し、ドナー登録申込みは12名と非常に順調な滑り出しでした。しかし、午後になって献血希望者は順調に増え始めましたが、ドナー登録は伸び悩みました。これは、建設フェスタスタッフの方の多くが午後に献血に来られ、また、その方々はすでにドナー登録済みの方がほとんどであったことが、大きな要因ではないかと思えます。途中、実行委員会のご配慮により、メインステージで行われているイベントの合間に、壇上で司会者からマイクを渡され、献血呼びかけと骨髓バンクの必要性と登録手続きは簡単であることを説明し、一人でも多くの患者さんに生きる勇気を与えて欲しいと、切に訴えることができました。チャリティーオークションでも、献血とバンクのPRをやらせていただくなど、計3回もステージでお願いすることができました。これも、実行委員の皆さまのお陰であると感じております。強風吹きすさび体温も奪われる中、参加された皆さま、本当にお疲れ様でした。来年、このイベントで登録会が行われる場合は、天候に恵まれるよう祈るばかりです。（伊井義人）

10月28日 筑波大学献血併行登録会

ドナー登録者数 34名（受付 36名）
献 血 者 数 57名（受付 96名）
参 加 者 つくば保健所：片岡様
いばらきの会 葭原さん、鈴木さん、藤岡さん、福間明子さん
地区普及広報委員 福間究

快晴・無風・暑くもなく寒くもなくと絶好の登録会日和で、いつもの書類が飛ばされたり、テントを押さえる必要が無く登録会に集中できました。

午前中は学生さんの往来が少なく、献血もドナー登録もわずかでしたが、午後からやっと学生さんが来てくれ沢山の方に登録していただきました。

登録が多かった理由は、献血に来る学生さんがちょうど良い間隔で来てくれたので、一人一人に

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

9月～3月 茨城県内イベント登録会等報告

骨髄バンクについての説明ができたこと、学生さんにドナーの必要性を理解してもらえたこと、説明員の人数が多かったので登録申し込みが集中しても対応できたことでした。

つくば保健所で研修中の筑波大学医学部5年生の男性4人（5人の予定でしたが1人は体調不良で欠席）に骨髄バンクとドナー登録会について、チャンスや財団の資料で説明を約30分間行いました。昨年は女性5人でした。医学部の学生さんらしく骨髄提供時の健康被害についての質問がありました。また、ドナー登録会での登録者数などの質問がありました。1人の学生さんは実際に骨髄採取状況を見学したそうです。登録での説明を聞いて登録を中止された方が1名ありました。理由は全身麻酔の不安でした。また、献血者への説明時にも全身麻酔への不安を言われた方がいました。全身麻酔への不安が多いので抹消血幹細胞移植の早期認可を希望します。

（福岡 究）

10月29日 古河市役所古河庁舎献血併行登録会

ドナー登録者数 19名（受付 21名）
献血者数 40名（受付 44名）
参加者 古河保健所：鈴木様
いばらきの会 葭原さん、長尾さん
地区普及広報委員 牛島英二

朝方会場へ向かう途中は小雨もぱらつくような天候でしたが、会場到着してしばらくすると穏やかな晴れ間も見えてますますの日和となりました。この会場では7年前に一度開催実績があり、13名の登録結果でしたが今回は合計19名の方々に登録いただくことが出来ました。当日の問診担当医は前血液センター所長の柏井先生で、現在は古河赤十字病院にご勤務とのことでしたが、過去に2度ほど登録会場でお会いしたことが有り、今回も骨髄バンク登録に対して大変好意のご対応いただき、特に血圧・体重条件について多少の基準値超えの方についても許容していただくなど、今回の好成績の大きな要因となりました。常に笑顔を絶やさず、穏やかなお人柄には大変感銘を受けました。また、ドナー登録のみの方も数名来場されて、事前のイベント会場でのPRや市広報誌での告知など保健所のご尽力の効果が現れました。市役所庁舎内でも数回の構内放送でのPRもあり、市職員の方々に献血とドナー登録にご協力いただきました。（牛島英二）

11月3日 常陸大宮ふれあい広場献血併行登録会

ドナー登録者数 30名（受付 33名）
献血者数 108名（受付146名）
参加者 常陸大宮保健所：木村様
いばらきの会 伊井さん、小田倉さん、川井さん、葭原さん
地区普及広報委員 細谷栄一

例年行われておりますジャスコ常陸大宮店での登録会から、常陸大宮保健所木村様のアイデアにより今年は「ふれあい広場」での登録会に変更になりました。結果これが大当たり！30名のご登録を得ることが出来ました。木村様本当にありがとうございました。天気予報では今年一番の寒さとのこと。覚悟して乗り込みましたが、午前中はそれほど風も無く穏やかで日差しのあるところでは暖かさを感じることも出来ました。

ただ予報通り雲が太陽を隠してしまうと寒さが身にしみる一日ではありました。会場は例年4～5万人の来場者数があるだけのことはあって、朝からたくさんの方が詰め掛けました。それでもここ数年来場者数は減少傾向にあるようで、それに伴い献血者数も減少しているとのこと。献血受付数も170～180を見込んでいたそうですが、150を超えることも出来ませんでした。骨髄バンクの登録者数は30人と満足の出来る数字を残すことが出来ました。私たちの登録受付

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

9月～3月 茨城県内イベント登録会等報告

の場所も駐車場までの通路でもあり、大変多くの方々にパンフレットをお渡しすることが出来ました。PR効果と言う意味でも有意義だったと思います。
寒い中御参加いただきました皆様、本当にありがとうございました。（細谷栄一）

11月5日 京三電気本社第一工場献血併行登録会

ドナー登録者数 7名（受付7名）
献血者数 31名（受付38名）
参加者 古河保健所：鈴木様
いばらきの会 福間さん、長尾さん
地区普及広報委員 牛島英二

この会場では約一年前に開催実績があり、対献血者登録率で84%（登録27名/献血32名）という驚異的な実績を残してしまっていたので、今回も期待されましたが残念ながら合計7名の結果に終わりました。この会場では年間2回の献血を実施されていると伺いましたが、献血される方はリピーターの方が多いためもあり、今回お声掛けをした献血者の方で前回登録された方が11名いらっしゃいました。（牛島英二）

11月18日 京三電気結城工場献血併行登録会

ドナー登録者数 8名（受付11名）
献血者数 19名（受付24名）
参加者 筑西保健所：悉知様
いばらきの会 細谷みさきさん
地区普及広報委員 細谷栄一

京三電機結城工場での実施は今回が初めてです。
数字からも分かる通り献血実施者のほぼ半数の方が登録の声掛けに応じてくださいました。
ただ残念ながら今回は献血希望者の方が通常より少なかったようです。
次回にも期待したいところです。（細谷栄一）

11月30日 イオンモール水戸内原店献血併行登録会

ドナー登録者数 25名（受付26名）
献血者数 39名（受付70名）
参加者 水戸保健所：桑原様、田邊様
いばらきの会 葭原さん、川井さん
地区普及広報委員 伊井義人

午前中は献血者の方も少なく、ドナー登録も4名という状況でした。午後は順調に献血も増え、ドナー登録へ回ってくださる方も徐々に多くなり、結果として25名の方に登録いただきました。中には、昨年お子さんが骨髄移植を受け、お返しにと登録をしてくださったお母さんもいらっしゃいました。

店内自体はたくさんの方で賑わっていましたが、献血会場は若干人通りの少ない通路で、なかなか献血のお願いもやりづらい場所でもありました。

できればもう少し人通りが多い通りに献血会場があればなぁとも思いましたが、各店舗の邪魔にならないようにするには仕方がないのかなとも思った次第です。

参加されました皆さま、本当にお疲れ様でした。（伊井義人）

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

9月～3月 茨城県内イベント登録会等報告

2月24日 セイマモール麻生店献血併行登録会

ドナー登録者数 9名 (受付10名)
献血者数 50名 (受付82名)
参加者 鉾田保健所：海老沢様
地区普及広報委員 牛島英二

2月の屋外での登録会ということで、寒さ対策として灯油ストーブを準備していましたが、幸いにも気温が高く好天に恵まれて寒さを感じることは無く、ストーブの出番はありませんでした。好天のためか、献血受付は開始直後から献血者が途切れること無く訪れて、献血実績の方はまずまずの結果となりました。

登録受付は午前の3時間で4名受付とあまり多くはありませんでしたが、午後からの1時間半で5名の方にご登録いただき、合計で9名登録となりました。

今回が今年度最後の登録会となり、今年度実績では25回の開催で合計422名の方々に登録いただくことができました。今年度から各保健所年間1回以上の開催という計画でスタートしましたが、結果として平均2回以上の開催回数となり、ご尽力いただいた各保健所ご担当者に心より感謝いたします。(牛島英二)

☆血液疾患市民公開セミナーが開催されました

2009年11月21日につくば市の国際会議場で血液疾患市民公開セミナー事務局主催の血液疾患市民公開セミナーが開催されました。

筑波大学附属病院 血液内科の 千葉滋 教授の司会で、

①筑波大学附属病院 血液内科の長谷川雄一先生講演による「血液は何から出来ている? ～貧血と止血～」 「輸血そして移植」

②筑波記念病院血液内科の佐藤裕二先生講演による「白血球の働き・白血病」

③土浦協同病院血液内科の清水誠一先生講演による「免疫の働き・リンパ球・骨髄腫」

以上の3人の先生により各テーマごとに講演されました。

当日は、茨城県西部にお住まいの方がほとんどでしたが、中には茨城県北部にお住まいの方を含め、300人近くの参加がありました。

また、「骨髄バンクのドナーを増やすにはどうしたら良いか?」の質問に対し、長谷川先生から、「骨髄バンクを支援するいばらきの会」や骨髄移植推進財団発行の「チャンス」の紹介がありました。(福間 究)

☆建設未来協議会様よりご寄付を頂きました

毎年、建設フェスタ会場におけますドナー登録会でお世話になっている建設未来協議会様より今年も4万円の御寄付をいただきました。

さる12月10日、水戸市にあります「茨城県建設センター」におきまして、寄付金の贈呈式が行われ、伊井さんと私の2名で出席をさせていただきましたのでご報告申し上げます。

今般頂きました寄付金は、骨髄バンク事業の普及啓発に有効に使わせていただきます。

この場をお借りしまして改めて感謝申し上げます。

なお、この贈呈式の模様が茨城新聞社の記事として掲載されました。

気負わず、あせらず、できることから、楽しく!

9月～3月 茨城県内イベント登録会等報告

骨髄バンク支援4万円を寄付

建設未来協議会

記事内容

県建設業協会（岡部英男会長）所属企業の若手役員で運営する建設未来協議会（大貫茂男会長）は10日、「骨髄バンクを支援するいばらきの会」（牛島英二会長）に、ひたちなか市で10月に開いた建設フェスタで実施したチャリティーオークションの売り上げから4万円を寄付した。同協議会はドナー登録会と寄付を毎年行っており、今回で4回目。会員企業も登録に協力し、実際にドナーになった社員もいるという。

大貫会長は「役に立ててうれしい。業界は厳しい経済状況だが、今後もなんとか活動を続けたい」と話した。骨髄バンクの会の福間事務局長は「毎年寄付を頂きありがたい。普及啓発、ドナー増加に活用したい」と感謝の意を述べた。

（茨城新聞掲載記事より抜粋させて頂きました）

☆12月19日 県立こども病院クリスマス訪問

恒例となりました県立こども病院へのクリスマスプレゼントを実施しました。

このイベントは、いばらきの会が01年から行っている行事で、今年で9年目となります。

今回の参加者は、サンタがとてもよく似合う（体型の）小田倉さん、これからもっと似合ってくるであろう弓野さん、とてもチャーミングな女性サンタの和田さん、それに毎回おなじみのトナカイおやじの伊井という4人組でした。

当初はノロウイルスや新型インフルの影響で、病棟の中までは入れないと聞いていたのですが、看護師長の寺門さんやボランティア担当の蓮田さんのお陰で、2A・2Bは病棟の中に入れて頂くことができました。入院しているこどもさん達は、新生児病棟をのぞき全部で55人。帰宅しているお子さんもいたため、プレゼントは基本的にはナースステーションへお預けし、月曜日に配っていただくことになりました。バルーンは4人で奮闘し、サンタ服に着替える前にあらかじめ作ったのですが、結構時間がかかり、病棟へ向かうのが少々ずれ込んでしまったことは、来年への反省点ということにしましょう。残ったプレゼントについては、病院で有効にお使いいただければということで、全て蓮田さんへお渡し致しました。

来年は10回目の節目の年、参加者が増えることを期待しつつ、夕暮れの高速を家路に向かいました。

こども病院の寺門さん、蓮田さん、いろいろとお世話になり、ありがとうございました。

また、参加されたみなさん、大変お疲れ様でした。（伊井義人）

☆1月29日 吉沼小学校において道徳授業を行いました

今日、つくば市立吉沼小学校の1年生クラスで「命のアサガオ」の道徳授業が行われました。

なぜそうなったかと言うと、それは、私の友人で染谷弘幸さんという気の優しい大工さんがいて、その染谷さんが、毎年近隣の幼・小・中学校に全校生徒分の種を配って下さっており、秋～冬にかけて回収し、私に届けて下さっています。その中で、吉沼小では、折角とれたアサガオの種だから次の新入生に自分たちから渡したい。という1年生の思いを叶えるため、その種のエピソードを話してほしい。ということで、染谷さんを通じ、私に話がありました。

話といっても、そんな長く話すことはできないので、命のアサガオの映画を見せることにしました。本日の進行と感想をご報告いたします。

1年生は2クラスで計41人。最初に「たんぼぼ」という歌で歓迎され、次にお客さん（我々）

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

の紹介。私からアサガオの種の由来を軽く話して映画鑑賞の始まり。

35分間でしたが、こども達は体育座りでよく見てくれていました。

私も何度も見た映画なのに、やっぱりウルウル。見終わった後、代表の子の感想文朗読。その子は偶然染谷さんのいとこの姪っ子で、普段おとなしい女の子らしいのですが、頑張って読み上げてくれました。

途中、泣きそうになりながら最後まで読んでくれました。またウルウル。次に自分たちが育てたアサガオの種の贈呈があり、私から一言お礼の言葉。

その時こども達の中にはしゃくるように泣いている男の子女の子が数人いて、それを見てまたウルウル。最後は校歌を歌って授業は終わり。

校長室に戻って、校長、教頭、教務の先生方と歓談。この授業は良かった。我が校だけではもったいない。もっと広げることを考える。と校長先生がおっしゃって下さいました。たぶん、丹後まみこさんと呼んで講演を企画したいようなことをおっしゃってましたから、実現すればお手伝いに行きたいと思います。

私からは、命のアサガオの高学年以上向けの本（新品）を1冊寄贈し、今度、低学年用の本を取り寄せて、吉沼小に寄贈することにしました。（先に校長先生が読むそうです。）朝からウルウルのしっぱなしで、心が洗われたような一日でした。（伊井義人）

新会員紹介コーナー

皆さんはじめまして、4月より「いばらきの会」に参加させて頂く後藤敏見(男)27歳の社会人です。仙台市が生まれで大学を卒業後、入社した会社では希望の勤務地と違って変わって静岡県、山梨県、茨城県という順で4年で3度も引っ越しをさせて頂いておる状況です。(笑)・・・

ボランティアを始めるきっかけとなりましたのは、ドナーをした経験からです。

3年程前ですが実の妹が急性骨髄性白血病となり、始めは抗がん剤治療や化学療法で対応していました。しかし効果が表れず残る手段は骨髄移植のみとなりました。

家族全員が検査したところたまたま私との数値が一致し、抹消血幹細胞移植を行いました。その後、順調かと思われた2年後に再発し再び移植を行い現在妹は退院して実家で療養中です。

この経験を通じて思ったことは、現在治療中の人やこれから治療を行う人にとって骨髄バンクは患者やその家族にとって唯一無二であり生きる望みであるということ。

そして世の中の人にこのことを少しでも知ってもらえるような活動をしたいという思いで今回参加させて頂きました。皆さんどうぞふつつか物ではございますがよろしく願いします。



うしーの日記



1. 昨年度の登録者数実績について

茨城県骨髓データセンター資料によれば昨年度の登録者合計は602名で、その内数としてドナー登録会分は422名を占めるが、昨年度の実質増加数は334名であり、登録抹消数は268名にのぼる。つまり有効登録率は55%に過ぎないということになる。

一昨年度の実質増加数が738名であったのに比べると半減以下の実績に止まっている。本県では昨年度よりドナー登録会の開催数が縮減され、登録者数も比例して減少している。

また、献血ルームでの登録者数も平成17年度をピークに漸減傾向をたどっており、昨年度は対前年度比で53%の実績となっている。

こうしたことから、今後は一人でも多くの登録者を得るため、可能な範囲でのドナー登録会の追加開催を企画するほか、あらゆる機会をとらえての県民へのPRを積極的に実施していきたい。

また、血液センターには全献血会場での随時受付方式の早期導入について、前向きな検討をお願いしたい。

2. テレビアニメ「サザエさん」と茨城

毎週日曜日夕方に放映されているテレビアニメ「サザエさん」を毎週欠かさず視聴しているが、オープニング画面（テーマソングと共に流される各地の名所巡り場面）で昨年秋と冬バージョンが連続して茨城の名所を紹介していた。ご覧になった方も多いのではないだろうか。

（現在は東京編を放映中）昨年秋バージョンでは花貫溪谷、袋田の滝、五浦海岸、ダイダラボウなど、冬バージョンでは偕楽園、千波湖、弘道館などが登場していた。

私自身は訪れたところもあれば、まだのところもありで茨城に関わる者として、一度はこうした名所の数々を訪れてみたいと思ったものである。

不景気のご時世ではあるが多くの人々に茨城の名所を訪れていただき、茨城の良さをたくさん味わってもらいたいものである。（牛島英二）

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！

骨髄バンクのボランティアを応援してください

骨髄バンクを支援するいばらきの会では、茨城県内で骨髄バンクの普及啓発をボランティアで行っています。活動資金は皆さまの善意の寄付によってまかなわれています。ボランティア活動への応援をお待ちしております。なお、ご面倒でもご寄付と会費の納入は郵便振替でお願いします。

郵便振替口座名義：00110-3-127575 加入者名義：骨髄バンクを支援するいばらきの会
【一般銀行から振込みの場合 銀行名：ゆうちょ銀行、金融機関コード：9900、店番：019、
店名(カナ)：〇一九店(ゼ ロイチキュウ店)、預金種目：当座、口座番号：0127575、
カナ氏名(受取人)：コツズ イバ ンクヲシエンズルイバ ラキノカイ】

事務局からのお知らせ

心のごもったご寄付をありがとうございました。(2009. 10. 01~2010. 5. 30)

松園茂樹様 5,000円

長尾洋子様 10,000円

石岡小学校屋内プール職員一同様 1,026円

大屋隆子様 3,000円

建設未来協議会様 40,000円

日立市・匿名 3,000円

牛島英二様 7,000円

境野紀子様 3,000円

望月正憲(笑話会)様 2,000円

石岡小学校屋内プール職員一同様 946円

ドナー登録は18歳から54歳までの健康な方ならどなたでも登録ができます。1人でも多くの皆様の御協力をお願いいたします。また、骨髄移植推進財団ホームページからも事前のお申し込みが可能となりました。ドナー登録についての詳しい説明もございますので是非ご覧ください。<http://www.jmdp.or.jp/index.html>

編集後記

〇約半年振りの会報の発行となりました。またこれからもご愛読よろしく申し上げます。
(編集担当 小田倉孝夫)

日本骨髄バンク骨髄提供希望者(ドナー)登録者数:359,256人(県内7,229人)

骨髄移植希望者(患者数):2,619人(海外1,234 県内27人)

バンクを通じての移植例数:11,678例(海外197 県内移植数204例、県内採取数230例)
(2010年04月末現在)

ドナー登録についてのご質問・お問い合わせは

(財)骨髄移植推進財団 ホームページ <http://www.jmdp.or.jp>

気負わず、あせらず、できることから、楽しく！